

解 答

1 (D)	2 (B)	3 (D)	4 (A)	5 (B)	6 (C)
7 (D)	8 (D)	9 (A)	10 (C)	11 (A)	12 (C)
13 (B)	14 (B)	15 (D)	16 (B)	17 (A)	18 (D)
19 (C)	20 (B)				

1. 「私たちが多いに驚いたことに、ジョンは法律を勉強するつもりだと公表した」
 ▶ **to one's surprise**「～が驚いたことには」。これを強調した形の(D)が正解。

to one's + 感情を表す名詞「～が…したことには」	
意味を強める時には、	
「 to one's great + 感情を表す名詞」	
または、「 much to one's + 感情を表す名詞」の形になる。	
<input type="checkbox"/> to one's surprise	「～が驚いたことには」
<input type="checkbox"/> to one's disappointment	「～が失望したことには」
<input type="checkbox"/> to one's delight[joy]	「～がうれしかったことには」
<input type="checkbox"/> to one's relief	「～が安心したことには」
<input type="checkbox"/> to one's regret	「～が残念だったことには」

2. 「その作曲家は彼のメロディーを盗作したかどで友人を非難した」
 ▶ 空欄の前にある **accuse** に注目。**accuse A of B**「A を B(の)で責める」の形で用いる。与えられた英文のように B に動名詞を用いることも多い。本問のように、選択肢が全て前置詞であるときは、ワンセットで使われる表現がないか文全体を調べるのも一手である。
 accuse A of B「A を B(の)で非難する/責める」
They accused him of lying in public.
 (彼らは彼を人前でうそをついたと非難した。)
 ▶ **blame** とほぼ同意であるが、前置詞は **for** ではなく **of** をとるので入試で狙われやすい。
 cf. **blame A for B**「A を B(の)で責める」
3. 「環境に優しくあることは、言うは易しいが、行うのは難しい」
 ▶ **is said** の受動態に副詞の **easier** が用いられた形。**said** は過去分詞なので、比較対象となる空欄にも過去分詞を用いる。なお、**Easier said than done.** は「言うは易しく、行うは難し」という諺でもある。**environmentally**「環境保護に関して」
4. 「私はパスタが嫌いなのではありません。今夜食べたい気分じゃないだけです」
 ▶ 空欄の後に **I don't like pasta** と SV の揃った文が続いている。空欄を含む文の動詞が **be** 動詞であることから、空欄には名詞節を導く接続詞が入ると考えられるので、(A)**that** が正解。
 It is not that S + V「(それは)S が V するというわけではない」
It's not that I always eat out. That's because I love cooking basically.
 (私はいつも外食するわけではない。基本的に料理が好きだからだ。)
 ▶ **that** は補語となる節を導く接続詞。
5. 「市のこの地域でそのような大きい庭を見ることは珍しい」
 ▶ **a big garden** という「**a[an]** + 形容詞 + 名詞」を強調する形容詞・副詞を選ぶ語法の問題である。**such** を強調的に用いる場合は、**such (a) + 形容詞 + 名詞** という語順になることに注意する。(A)**so** の場合は **so big a garden**, (C)**more** の場合は **a big more garden**, (D)**fairly** の場合は **a fairly big garden** の語順となる。
 such + a[an] + (形容詞) + 名詞
 ▶ 形容詞としての **such** は、冠詞 **a[an]** の前に置かれ『**such + a[an] + (形容詞) + 名詞**』の語順になる。
 cf. **such a pretty girl (= so pretty a girl)**

6. 「サイモンは蟹を食べるといつも腹痛になる」
- ▶ コンマの前後でそれぞれ英文が完成していることから、空欄に適切な接続詞を入れて複文を完成させればよいとわかる。接続詞は(C)と(D)だが、文のつながりから判断すると、(C)Whenever「～するときはいつでも」がふさわしい。
 - **whenever** 「～するときはいつでも」
 - ▶ **whenever** には『時』の副詞節を導く用法の他に、『譲歩』の副詞節を導く用法もある。どちらの用法かは、文脈で判断する。
 - On holidays, we can get up *whenever* we want to. [時]
(休日には、いつでも好きな時に起きることができる。)
 - You will be welcomed *whenever*[no matter when] you come. [譲歩]
(君がいつ来ようと、歓迎するよ。)
7. 「あの俳優は自分で考えているほど知的じゃない」
- ▶ 与えられた英文の **thinks** の後には接続詞の **that** が、**is** の後には **smart** がそれぞれ省略されていると考える。また、空欄の後に文がきていることから、**not as ~ as ...** となる(D)を空所に入れば自然な英文となる。
 - **not as[so]+原級+as ...** 「…ほど～ではない」(= **less+原級+than ...**)
 - The climate of England is *not as mild as* that of Japan.
(英国の気候は日本ほど温暖ではない。)
8. 「この新しいプロジェクトには何人参加しているか知っていますか？」
- ▶ 選択肢すべてが過去分詞であるので、直後の **in this new project** に合う表現を考える。**be involved in ~**には「～に参加している」の意味がある。**with this new project** ならば(B)associated でも可能である。
 - その他の選択肢は、(A)invite「～を招待する」、(B)associate「～を結びつけて考える」、(C)attach「～をくっつける」という意味である。
 - **be involved in ~** 「～に関わっている/参加している/巻き込まれる」
 - Many high school students *are actively involved in* volunteer work.
(多くの高校生が積極的にボランティア活動に参加している。)
 - **be associated with ~** 「～と関係がある/~と結び付けられる」
 - I have *been associated with* the company for ten years.
(私はその会社と10年間関係している。)
9. 「彼女の勉強した総時間を考えれば、アリスがクラスで最高点を取ったことに私は驚きません」
- ▶ 空欄のあとに **all the time** という名詞があるので、選択肢の中から前置詞である(A)considering「～を考えると」を選ぶのが正しい。(D)は **in consideration of[for]** ~とすれば「～を考慮して」という意味になる。
 - **considering ~** 「～を考慮に入れると/~のわりには(=for)」
 - ▶ 慣用的な分詞構文として **that** 節を目的語にとったり、前置詞として名詞をあとに続けたりする。
 - Considering* (that) he has no experience, he did quite well.
(未経験にしては、彼はよくやった。)
10. 「インターネットは、その進歩的な科学技術にも関わらず、一世代前に作られた通信伝達手段に深く依存している」
- ▶ **heavily** という副詞なら **relies on** を修飾する形として正しい英文になる。なお、**with all its advanced technology** は **with all ~**「～にも関わらず」を用いた挿入句である。
 - **with all ~** 「～が存在するので/~にも関わらず」
 - With all* her faults, I still love her.
(彼女には欠点があるが、やはり彼女が好きだ。)
 - **rely on[upon] A (for B)** 「(Bを)Aに頼る/あてにする」

He is not a man to *rely on*.

(彼は頼れる男ではない。)

11. 「世界情勢についていくため新聞を読んだり、ニュースを見たりすることが私たちには重要である」

▶ 選択肢はすべて動詞である。() up with World events by reading news paper ...「新聞を読むことで世界情勢に()」という文脈にふさわしいものを選ぶと、(A)keep が最適である。

□ **keep up with** ~ 「~に遅れずについていく」 (= **keep pace with** ~)

Many people read newspapers to *keep up with* the times.

(多くの人たちは、時勢に遅れないように新聞を読む。)

□ **come up with** ~ 「(考え・答えなど)を思いつく/見つける/提案する」

They *came up with* some really good solutions.

(彼らはいくつかの実によい解決策を思いついた。)

▶ **come up with** ~には「~に追いつく」の意味もある。

12. 「私どもの製品に何かご質問がある場合は、遠慮なくご連絡ください」

▶ 問題の選択肢はすべて動詞で、() to contact us という不定詞を目的語にとっている。選択肢の中で to-不定詞を目的語にとる語法を持つのは(C)hesitate のみである。

□ **Don't hesitate to do** 「遠慮なく~してください」

Please *don't hesitate to* ask if there's anything I can do.

(私にできる事があれば遠慮なく言ってください。)

cf. **hesitate to do** 「~するのをためらう」

Lynn *hesitated to* go to the party with Bob at first.

(リンはボブとパーティーに行くのを最初ためらった。)

13. 「手に入り次第、最新の情報を利用できるように努力します」

▶ 空欄は **make+O+C**「OをCにする」のCに当たる部分。the latest information 「最新の情報」と合うのは available「利用できる」である。Cには名詞・形容詞・過去分詞が入るが、「…される」意の純然たる過去分詞を用いるのは不可。

[例] ×make the work *done* (その仕事をさせる)

➡ get[hav]e the work *done* のように言う。

14. 「その病院は明日 9 時半から 12 時半まで開いているだろう」

▶ 後続の to との関係から、from A to B「A から B まで」となる(B)が適切である。

[例] The lecture ran *from* 11 a.m. *through* lunch *to* 3 p.m.

(その講義は午前 11 時から昼食をはさんで午後 3 時まで続いた。)

15. 「残念ながらあなたの業務はもはや必要とされないと告知いたします。どうぞ週末までにオフィスから出て行って下さい」

▶ 問 12 と同様に、to-不定詞を目的語にとる動詞を残し、その中で文意に沿うものを選ぶ方針で解くと良い。選択肢の中で不定詞を目的語にとるものは(D)regret のみである。regret to do で「残念ながら~する」という意味。

□ **regret to do** 「残念ながら~する」 (= **be sorry to do**) [未来]

I *regret to* say that I cannot accept your offer.

(残念ながらあなたの申し出をお受けできません。)

cf. **regret doing** 「~したことを後悔する」 [過去]

I *regret not going* to university when I was young.

(若い時に大学へ行かなかったことを後悔している。)

□ **no longer** ~ 「もはや~でない」 (= **not ~ any longer**)

A visit to the moon is *no longer* impossible.

(月への旅行はもはや不可能ではない。)

16. 「お互いの意見の違いについて話し合える機会が持てて嬉しいです。だいぶ気分がすっきり

りました」

- ▶ 選択肢はすべて文法的に正しいので、文脈からふさわしいものを選ぶ。第2文の内容から、話し合ったことで誤解、あるいはわだかまりが解けたという内容だということがわかる。したがって、選択肢の中では(B)opportunity「機会」が最適だと判断できる。その他の選択肢は、(A)situation「状況」、(C)circumstance「(周囲の)事情」、(D)cause「原因」という意味である。

17. 「トムほど私を悩ませる人は今までいなかった」

- ▶ 空所に入る語が修飾をしていると考えられる people が可算名詞であるため (B)Little は不可。また、ever があることから英文が同等比較(as much as Tom) を用いた最上級相当表現であると判断できるので、(A)の Few を入れれば「トムほど私を悩ませる人は今までいなかった」という意味になる。

□ few 「ほとんどない/少ししかない」〔否定的〕

Few students handed in the homework.

(宿題を提出した生徒はほとんどいなかった。)

- ▶ 可算名詞の前に置いて「ほとんど～ない」という否定的な意味を表す。

- ▶ a few となると「少しはある」という肯定的な意味になる。

I have a few days to finish this report.

(このレポートを仕上げるのに、あと数日ある。)

few/little の意味と用法			
意味	用法	可算名詞の複数形につけて『数』を表す	不可算名詞の単数形につけて『量』『程度』を表す
少しの〔肯定的〕		<input type="checkbox"/> a few <input type="checkbox"/> a small number of	<input type="checkbox"/> a little <input type="checkbox"/> a small amount of
ほとんど～ない〔否定的〕		<input type="checkbox"/> few <input type="checkbox"/> only a few	<input type="checkbox"/> little <input type="checkbox"/> only a little
少なからぬ		<input type="checkbox"/> not a few <input type="checkbox"/> quite a few (= many)	<input type="checkbox"/> not a little <input type="checkbox"/> quite a little

18. 「部屋を離れる時は、忘れずに明かりを消してください」

- ▶ 空欄に入る動詞は to turn off the lights という to-不定詞を目的語にとっているので、to-不定詞を目的語にとる語法をもつ動詞の中から、文意に合うものを選びたい。なお、Don't がなければ、(A)remember が正解となる。

□ forget to do 「～することを忘れる/～し忘れる」〔未来〕

Don't forget to mail this letter on your way to school.

(学校へ行く途中、忘れずにこの手紙を投函しなさい。)

- ▶ これから先の行為についてだから to do。

- ▶ Don't forget to do = Remember to do の書き換えも覚えておこう。

cf. forget doing 「～したことを忘れる」〔過去〕

I'll never forget meeting her.

(彼女に会ったことは決して忘れません。)

19. 「成功は簡単ではない。それには勤勉な労働と思慮深い計画立案が必要である」

- ▶ come easy で「簡単にできる」の意味。この easy は副詞である。決まった表現以外は easily を用いる。

cf. □ go easy 「気楽に構える」

□ Easy come, easy go. 「悪銭身につかず」

20. 「すみませんが、あなたに支払うのに一万円札より少額のお金は持っていないのです」

- ▶ but 以下が否定文であることから、(B)anything を入れれば「あなたに支払うのに一万円札より少額のお金は持っていない」という意味になる。なお、a 10,000 yen note は不定詞 to pay you with の目的語になっている。a 10,000 yen note 「一万円紙幣」。